



01

インパクトレポート2024

株式会社アソボット

アソボット パーパス

“コミュニケーションの力で社会を豊かな場所にする”

アソボットは、コミュニケーションを通じて「社会」を「豊かな場所」にしたいと思っています。「豊かな場所」とは、一見凡庸な表現に聞こえるかもしれませんが、言い換えると「文明化された場所」を意味しています。この言葉には、大きく2つの期待が込められています。一つは、自分とは直接関係がない社会 이슈を大事なことだと考え、その解決に積極的に関わろうとする人たちが集う場所であること。もう一つは、そのような人たちを育む土壌として、文化やカルチャーのように経済合理性がないものを大切に感じる市民が暮らす場所であること。伝えたいメッセージを伝えることができ、まだ出会っていない人と人をつなぐことができ、新しい世の中の見方を獲得することができるコミュニケーションの力で、そんな「社会」をつくっていきたいと思います。

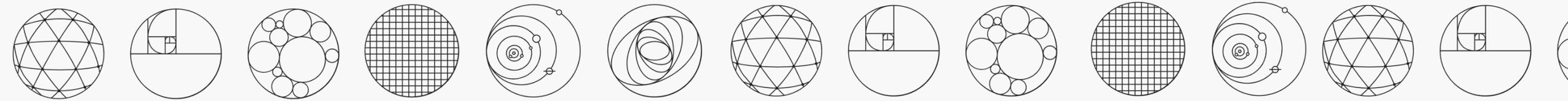
We make our society more civilized through communication. A civilized place is one where people see culture and art as important for humanity and are willing to get involved in social issues that are not directly related to them.

目次

インパクトレポート 2024 期間：2023/12~2014/11/30

1. ラーニングデザインラボ
2. ジブン・ラボ ~フツウ・ラボ~
3. アソボット 連載記事
4. SDGs手帳
5. アソボット B面ポッドキャスト
6. After Class by asobot
7. 寄付について
8. ボランティア&プロボノ
9. 社員ダイバーシティ
10. 環境への取り組み

アソボット ラーニングデザインラボ

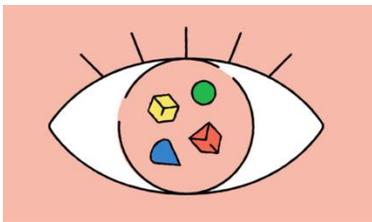


Learning Design Lab.では、学校では教えてくれない、教科書にも載っていない、でも、人生において大切なことについて、さまざまなテーマを設定しながら、それに関連した「学びのコンテンツ」をキュレーションしていきます。収集するコンテンツは、書籍はもちろんのこと、動画やWEBサイト、ゲームやワークショップツール、アート作品など、さまざまな表現メディアが対象です。

試験やキャリアのための学びではないため、正解があるわけでもなく、すぐには役に立たないかもしれませんが、どれも人生を生きていくために必要なことだと考えています。

今後も、時代に合った新たなテーマを設定して、それを伝えるためのコンテンツを発掘し、時には自分たちで学びのコンテンツを開発してみる。さながら「ミュージアム展示」の企画をしていくイメージです。できれば、学校でも塾でもなく、アートやサイエンスだけでもない、人生の大切なことをいつでも学ぶことができる『Learning Design Museum (仮)』のような場所を、いつの日かオープンさせてみたい。そんな想像をしています。

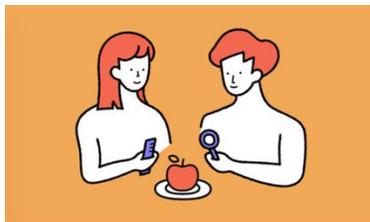
現在取り上げているテーマは、次の6つ。詳細は[こちら](#)から。



『多様なチガイ学』

好奇の目ではなく、好奇"心"の目を向けてみる

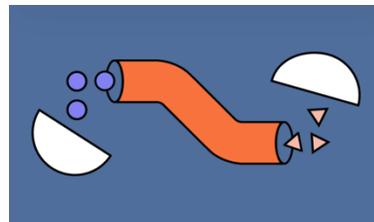
DIVERCITY & INCLUSION lab



『ジェンダー&セックス学』

そろそろ「愛」とか「性」の話をちゃんとしてみたい

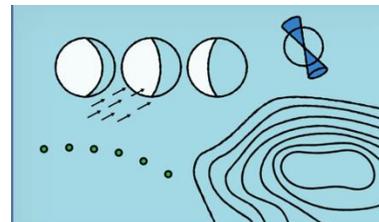
GENDER & SEX lab



『メディアリテラシー学』

超情報社会の中で「自分の考え」を持つために必要なこと

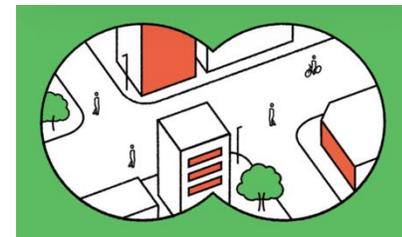
MEDIA LITERACY lab



『地球と人間学』

「地球」という惑星で生存していくための人類の知恵

PLANET & SUSTAINABILITY lab



『社会のしくみ学』

私たちが社会の中で暮らしていくために必要なこと

SOCIAL & CITIZENSHIP lab



『戦争と平和学』

「平和=反戦」だけではない、戦争と平和の学び方

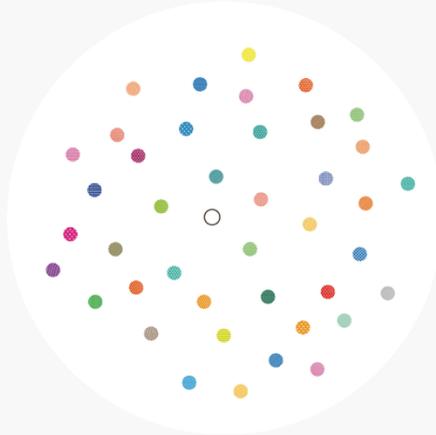
PEACE & CONFLICT lab

アソボット ジブン・ラボ ～フツウ・ラボ～

ラーニングデザインラボ×
東京大学先端科学技術研究センター 協働事業

ジブン・ラボ

「ダイバーシティ」や「インクルージョン」が
求められている時代に本当に大切なこと。
それはきっと「受け入れる」という姿勢ではなく、
多様性の中に自分自身を「位置付ける」という視点。



近年、「ダイバーシティ」や「インクルージョン」という言葉を社会のいろいろな場所によく耳にするようになりましたが、理念の大切さはわかるものの、実際にどのように行動したらいいのかわからないのか、何から始めたらいいのかわからないのも難しい問題です。コミュニケーションの主な対象となる「社会的マイノリティ」の人々の前提を理解するというのも、決して簡単なことではありません。そこで、ダイバーシティやインクルージョンを「標語」としてではなく、きちんとした「知識」や「技術」として習得するためのカリキュラム開発がこの『ジブン・ラボ』の目的になります。

具体的には、東京大学先端科学技術研究センターと協働して、「当事者研究」という研究分野の手法をベースに行っていきます。当事者研究とは、マイノリティの当事者同士が自らの体験を共有し合いながら、今まで理解されていなかった現象を言語化することで、自分の助け方や理解を見出していく手法です。

『ジブン・ラボ』では、当事者研究の分野と関連したさまざまな知見をもとに、杉並区の生涯学習事業として2022年度よりシリーズ講座を開催しています。 詳細は[こちら](#)から。



2024年度は『フツウ・ラボ』と題して、社会の多数派がつくるルール（フツウ）について考えていくために、発達障害者の側から多数派のルールやコミュニケーションを研究する『ソーシャル・マジョリティ研究』をベースにしながら、「マジョリティ特権」や「異文化理解」など、よのなかのさまざまな「フツウ」を探る講座を開催しました。

全7回 講義&ワークショップ+特別講座						
9月21日(土)	9月28日(土)	10月19日(土)	11月7日(木)	11月16日(土)	12月7日(土)	12月14日(土)
14~17時	14~17時	14~17時	19~21時	14~17時	14~17時	14~17時
オリエンテーション	講義+ワークショップ①	講義+ワークショップ②	特別講座	講義+ワークショップ③	講義+ワークショップ④	クロージングセッション
	感情ってどこからくるの? —感情と社会—	会話しやすい配置とは? —F陣形システム—	マジョリティ特権ってなに? 出口 真紀子 (上智大学教授)	フツウの会話のルールとは? —順番交替・言葉と行為の所有権—	会話のちよどよさってどんなもの? —グライスの格率・ポライトネスの原理—	



2023年度は『チガイ・ラボ』と題して、発達障害や依存症、統合失調症など、さまざまなマイノリティの当事者から見えている世界を学ぶ講座を開催しました。



アソボット ジブン・ラボ ～フツウ・ラボ～

*実際にフツウ・ラボの講座を受講した生徒さんの声をいくつか紹介します。

受ける前は漠然と、自分はフツウだと思っていた。受けたあとは、自分はフツウなときもあるし、そうでない場合もある、常に移り変わってゆく存在であるのだと感じた。

今自分が関わりのある人たちと今後末長く心地よい関係を築いて行くために、自身の考え方や行動にこれまでより広い視野で臨もうと思う。これまでも相手、他者の言動を自分なりに理解を深めようと努力して来たが、そこには自分なりのフツウが前提としてあったように思う。そのフツウの概念を一步俯瞰出来る視野のヒントを頂けたと思うので、今後活かして行ければと思う。



人それぞれ考えが違うという事について、居心地がいい距離をメジャーで計る事で、可視化され現実的に感じました。普通は一人の普通で、他の人の普通では無いという事を気づけた事は、今後の人生に活かしていきたいと思います。

「ふつう」の中に潜むジェンダーギャップや法的な差別（婚外子の相続権、外国人のビザ携帯遵守）は実は社会的慣習や法律が大きな偏見の上に成り立っていると感じます。

市販されている本はよく整理され抽象化されており、読み過ぎもあって我々の生き様に反映していくには時間がかかること、また本は多くの人の考えを記述しているわけでもないの、社会教育セミナーのようなグループミーティングを通して多くの人の意見を知る機会には意義深いことと感じます。

アソボット 連載記事

アソボット公式HPでは社会 이슈に焦点をあてた連載記事を公開しています。

2024年は、台湾在住のノンフィクションライター・近藤弥生子さんと一緒に、台湾から「民主主義のヒント」を学んでいく連載企画をスタート。「台湾から学ぶ「民主主義ってなんだろう？」というテーマで**3つ**の記事を公開しました。

さらに、社会的テーマの映画の配給・制作会社ユナイテッドピープルの作品を通して、世界のさまざまなテーマについて語り合う「シネマ・ダイアログ」の連載企画で**3つ**の記事を公開しました。

下記のボックスをクリックすると、該当記事を読むことができます。

 <p>この連載企画をはじめの想い</p> <p>#JOURNAL ></p>	 <p>連載①[台湾総統選挙]主権者は自分だ、この社会は自分たちのものだ</p> <p>#JOURNAL ></p>	 <p>連載②[青島行動]デモへの参加は公民の授業</p> <p>#JOURNAL ></p>	 <p>映画会社「ユナイテッドピープル」とシネマ・ダイアログ</p> <p>#JOURNAL ></p>	 <p>#001『ガザ・サーフ・クラブ』</p> <p>#JOURNAL ></p>	 <p>#002『ミッション・ジョイ～困難な時に幸を見出す方法～』</p> <p>#JOURNAL ></p>
---	--	--	--	--	---

アソボット B面ポッドキャスト

アソボットは、アソボットB面のポッドキャストで様々なコンテンツや学びを共有しています。
2024年度には、**全17エピソード**を配信しました。

- 1/1 10年かけて考えたい10のコト
- 1/31 地球の学び方
- 2/29 私たちの世代が将来のために今考えたいテーマ
- 3/29 編集者の視点 前編&後編
- 4/30 無料相談所 vol.6
- 5/31 大学生 未来調査隊 テクノロジー編
- 6/28 一照さんと。 生成AI時代に、人間が考えるとはどういうことですか？ 前編&後編
- 7/31 海を学ぶ 前編&後編
- 8/31 未来調査隊 日本のグローバル化
- 9/30 すべてはファンづくりからはじまる プロデューサーにとってのファンづくり 前編&後編
- 10/31 編集者の視点 前編&後編
- 11/30 大学生の“ふつうってなに？”-現役早稲田生によるコモンセンス調査隊 留学生活(アメリカ・カナダ・イギリス)編

こちらのボックスをクリックでポッドキャストを聴くことができます。

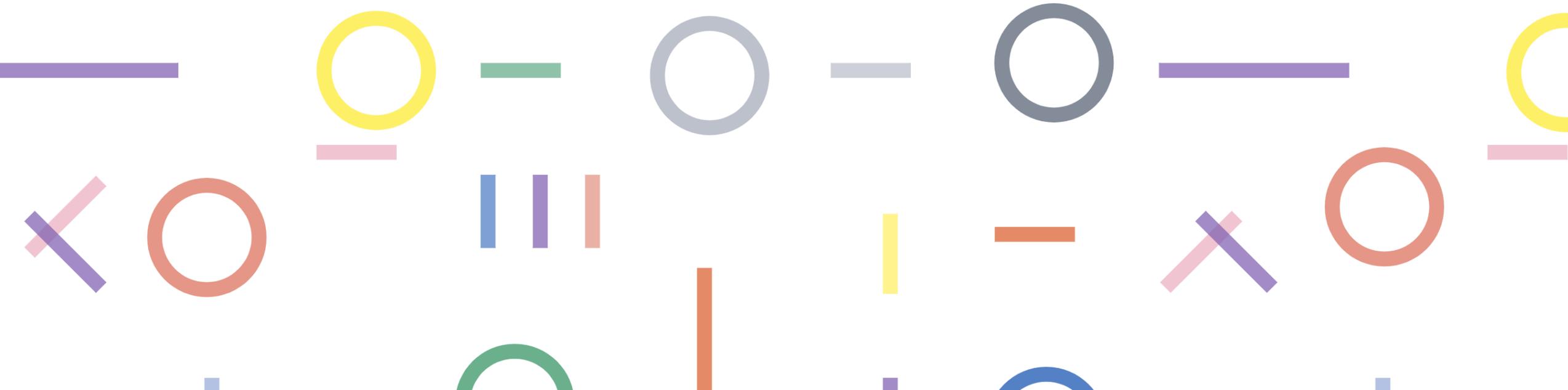


After Class by asobot

アソボットでは、若者との継続的な関わりを深めるため、大学生や卒業生が自由に交流できる場を提供しています。

この取り組みの一環として、Slackを活用したコミュニティ『**After Class by asobot**』を立ち上げました。この場では、アソボットと学生の相互情報交換や学びの共有が行われるだけでなく、若者同士がつながり合える場を目指しています。

現在、**57名**のメンバーが参加しており、さらなる拡大を目指しています。



アソボット ボランティアとプロボノ

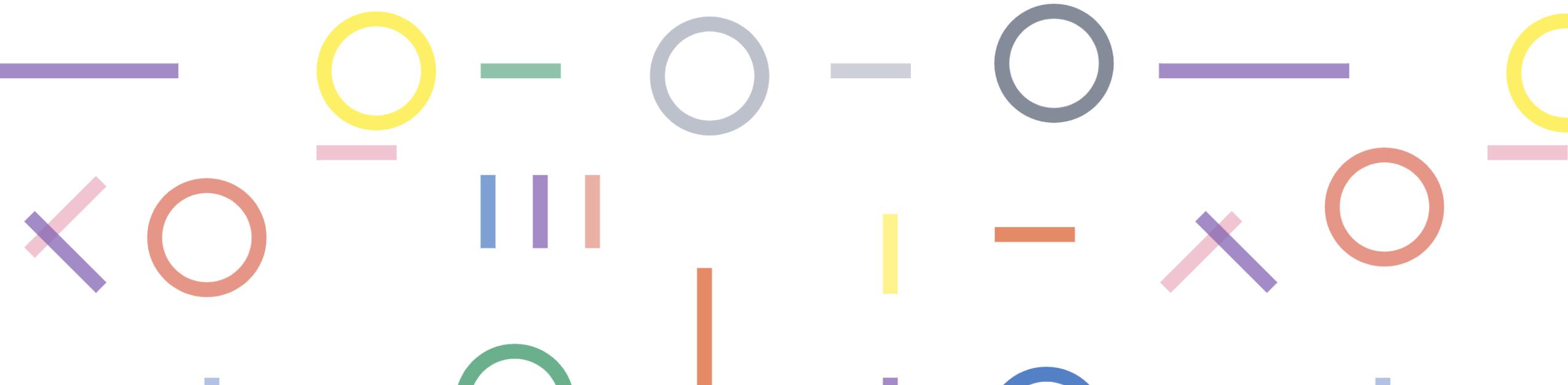
社員のボランティア時間

内訳：

オンラインミーティングへの参加 月に1回 - 第4週土曜日 (計11回)

現地ミーティングへの参加 7/8、9/22~23

計35h



アソボット 寄付について

アソボットは寄付を通して、様々なプロジェクトやNPO法人を応援しています。2024年度には**総額56,678円**でした。アソボットの2023年12月～2024年11月の寄付先は以下の通りです。



開発教育協会 (DEAR)



地震の影響によって被害を受けた家屋 (石川県七尾市 撮影: 2024年1月2日)
2024年石川県能登半島地震 緊急支援
ピースポート災害支援センター



Dialogue for people



あたらしいげんばく展

記憶の解凍 | 対話と色彩で蘇る。原爆投下前の日常、人々の想いを映画に



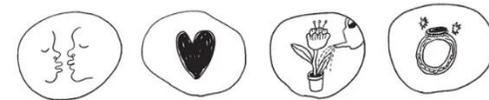
記憶の解凍プロジェクト

支援総額
6,010,000円 目標金額 3,000,000円
支援者 304人 募集終了日 2024年3月31日
<https://readyfor.jp/projects/...> コピー
集金状況を確認し、あなたのシェアによってこのプロジェクトに何人参加しているかを確認できます



認定NPO法人 3keys

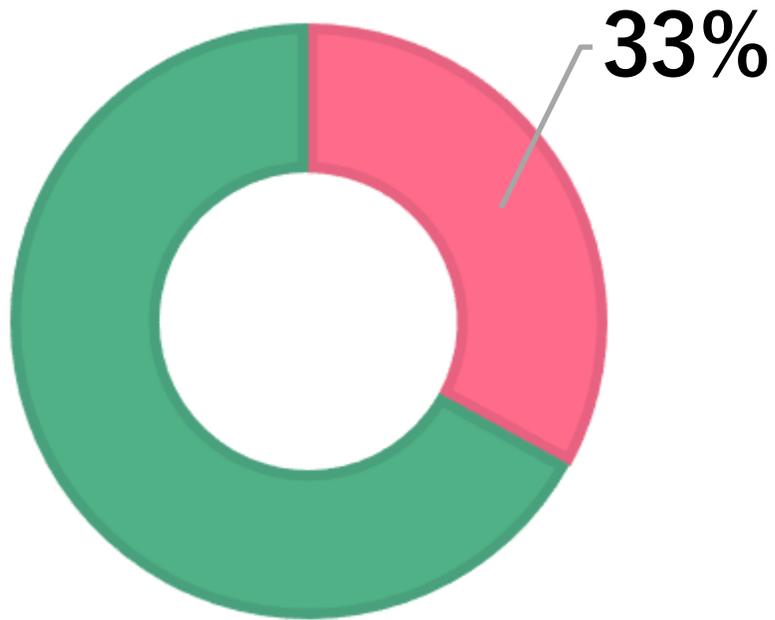
アソボットは今後、プロボノ活動やボランティア、寄付を通してより多くの支援をしていきます。



社員ダイバーシティ

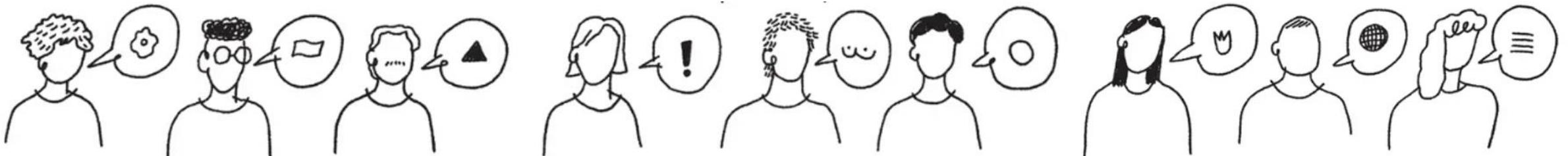
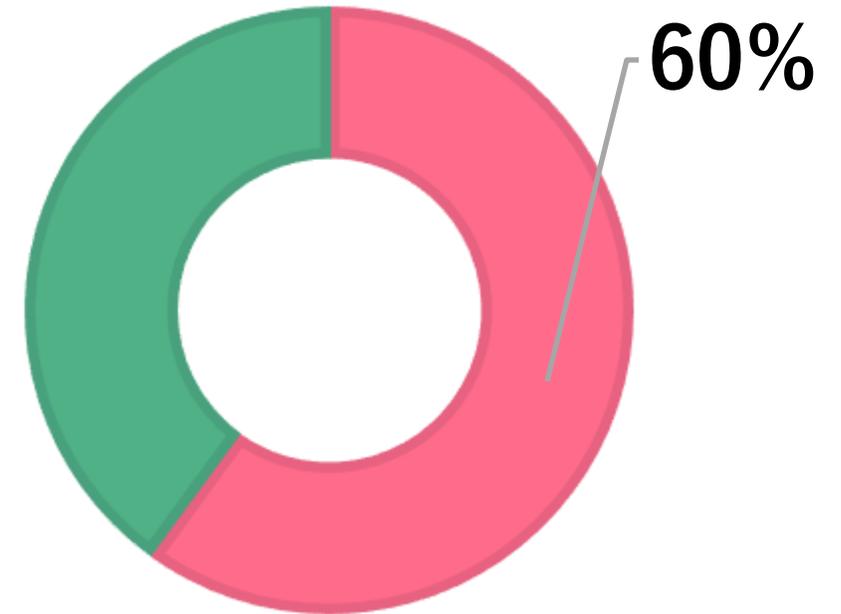
経営層に占める女性の割合

■ 女性 ■ 男性



従業員の女性の割合

■ 女性 ■ 男性



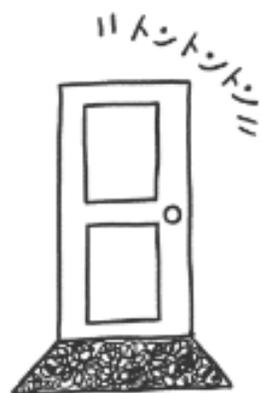
環境への取り組み

1. 電気と水道の年間使用量 (2023年12月～2024年11月)

電気：6,432kWh

水道：17m³





©asobot inc. all rights reserved.